

台農 4 号(たいのうよんごう)

(別名 ポゴール)

来歴：「スームスカイエン'三菱系'」と「エロー・モーリシャス」の交雑種。
インドネシアより導入。

特 性

■栽培特性

形態的にはクィーン群に似ており、草勢は中位、草姿はやや立性で、草丈および莖長は中位である。葉縁全体に小さなとげが密生するため、栽培管理上やや難点がある。莖の太さはやや細く、葉は「エロー・モーリシャス」よりやや長く、幅はほぼ同程度である。葉色は緑色で、葉の花青素も「エロー・モーリシャス」とほとんど差がない。通常、いはは少ないが、えい芽および吸芽の発生は多い。低温、短日で感応しやすく、草本がやや小さくても花芽分化し、夏実は果実がやや小さい。初期生育が緩慢なため、大苗を植え付ける。

■果実特性

果実はやや小さく、円錐形で冠芽は小さい方である。小果数は多く、大きさはやや小で、小果の頂部が突出して、各小果の分離性は比較的良い。果実もクィーン群に似ており、「エロー・モーリシャス」に比べ平均果実重はやや大きい。果皮色は淡橙色で、果皮の厚さ、果肉の厚さはクィーン群と大差ない。果肉色は黄色で、果肉の硬さは中位であるが、果汁が少なく、空隙が多い。果芯部は比較的軟らかい。糖度が高く、酸はやや低い傾向にあり食味良好である。香気は高い。早熟性である。

■病虫害抵抗性

花樟病、黒目病およびバイン萎凋病には、比較的強いが、アオドウガネムシの被害を受けやすい。

■地域適応性

生食用品種として増殖されつつあるが、沖縄本島北部および八重山地域にも適し、今後、沖縄県のバインアップル栽培面積の1～2割に増殖される予定である。

(高原利雄)